

普及課だより

東三河農林水産事務所農業改良普及課
(東三河農業普及指導センター)

2023.10 月号

No.62

〒440-0833 豊橋市飯村町高山 11-40

TEL : (0532) 63-3529 FAX : (0532) 63-7023

Web : <http://www.pref.aichi.jp/>

nourin-higashimikawa/higashimikawa-fukyu/

新しい技術の紹介

大葉の天敵利用による害虫防除

大葉はマイナー作物に分類され、使用可能な薬剤が限られ、薬剤抵抗性が発達しやすい、ハダニ類やアザミウマ類の害虫対策が喫緊の課題となっています。そこで、天敵(カブリダニ類)を利用した効果的な防除体系の確立に向け、令和3年から試験に取り組んでいます。

これまでの試験から、秋冬期での防除効果や、天敵放飼のタイミングなどが把握できており、今年度は、夏場の害虫増加を抑えつつ、天敵を利用できる防除方法を検討しています。

今後、3年間の結果をまとめた防除指針を作成する予定です。



天敵資材の放飼

地球温暖化対策 ブドウの着色向上

地球温暖化による夏季高温の影響で、ブドウ「巨峰」の着色不良が産地で問題になっています。そのような中、着色向上効果があるアブシシン酸液剤の新農薬が令和5年に販売開始されました。

農業改良普及課は、JA、メーカーと共同で現地試験を産地に提案し、前年着色不良で大きく収益を減らした生産者を試験ほ場に設定しました。

着色期に散布し収穫期に効果を確認したところ、試験区の「巨峰」はカラーチャート値で1以上着色が向上しており、等級の向上が見込まれました。試験ほ場の生産者は「前年と比較して大きく着色が改善した。」と笑顔で話していました。



着色向上した「巨峰」

移植機利用によるタマネギ栽培改善

キャベツ・タマネギで利用可能な一条植え歩行型全自動移植機が開発され、キャベツ専業農家がセルトレイ苗を利用したタマネギ栽培に取り組んでいます。セルトレイ育苗のタマネギ栽培は、特に晩生品種「もみじ3号」で通常よりも内分球発生が多く、秀品率低下が問題となっています。

そこで、内分球対策の現地試験を行い、慣行よりも追肥量を減らして内分球が減少すること、早植えした場合に内分球発生率が上昇することが明らかになりました。他にも、農業総合試験場が前作のキャベツ残渣が気温の上昇とともに分解され窒素供給源となることや、分球を減らすための追肥の時期を明らかにし、これらの結果をもとに内分球対策のための栽培指針が作成されました。



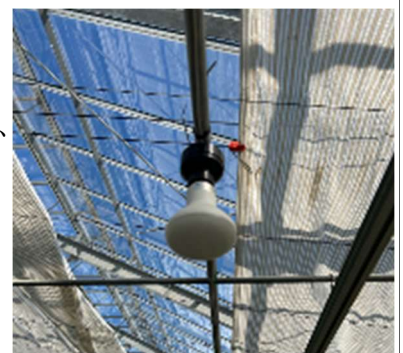
内分球による変形タマネギ

LED活用でカーネーション収量1.5倍UP!

カーネーションは相対的長日植物であり、日長延長処理を行うことで開花が前進化し、株あたりの採花本数が増加することが知られています。昨年度から農業改良普及課は、豊橋市のカーネーション生産者2名そして愛知県農業総合試験場花き研究室と協力し、LEDを利用した日長延長処理が収量に及ぼす影響を現地実証しています。

その結果、晩生品種「ミヌエット」では1株あたりの採花本数が1.5倍増加し、生産者も効果を実感しています。

今年は効果の高まる電照方法や導入コストが削減される設置方法を模索していく計画です。



設置したLED

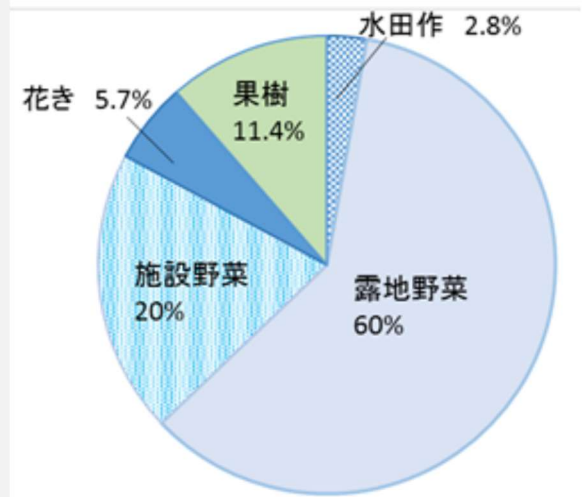
令和5年度の新規就農者の状況

管内3市（豊橋市、豊川市、蒲郡市）の新規就農者数は35名で、昨年度の26名より9名増加しました。

部門別では露地野菜が60%、次いで施設野菜が20%を占めています。特に露地野菜は県全体（34%）と比べて割合が大きく、露地野菜の中でもキャベツが多くを占めています。施設野菜では、イチゴ・ナスの2品目で多くを占めました。

就農形態別では就農の経緯は、新規学卒が8.1%、Uターン就農が56%、新規参入が35%です。近年は、新規学卒の割合が減少する一方で、新規参入の割合が増加する傾向にあります。（令和5年5月1日現在）

農業改良普及課では農起業支援センターが設置されており、農業大学校（農起業支援ステーション）及び関係機関と連携し、就農を希望される方々が円滑に就農出来るよう支援していきます。



新規就農者の品目別割合

管内農業の話題

J Aひまわりいちご部会 新規栽培者研究部が育苗勉強会

J Aひまわりいちご部会新規栽培者研究部（6名で構成）が7月20日に育苗研修会を開催し、部会収量トップ農家のほ場と新規栽培者のほ場あわせて6か所を巡回しました。新規栽培者6名、研修生1名、優良農家4名が参加しました。新規栽培者研究部は、新規栽培者の早期技術習得を目的としており、新規栽培者から「病害対策には、高温対策だけでなく通気性も重要だと分かった」、「優良農家の苗質（苗の揃い、クラウンの太さ）を目指すことが目標になった」等の感想が聞かれました。

農業改良普及課は、引き続き新規栽培者研究部活動（栽培基礎勉強会や他産地視察等）及び新規栽培者の早期技術習得を支援していきます。



育苗のポイントを聞く

豊橋4Hクラブ視察勉強会を実施

豊橋4Hクラブは技術向上や会員間の交流を深めるため、豊川市内で視察勉強会を実施し、会員7名で視察勉強会を実施しました。視察先として、①豊川4Hクラブ員ミニトマト農家、②大規模ミニトマト農家、③バラ・ブロッコリーの複合農家、④J Aバラ集出荷場の4か所を訪問しました。

ミニトマト農家では雇用管理や経費節減について、バラ農家ではブロッコリーの導入メリット等について、バラ集出荷場では検査の様子や販売形態について学びました。訪問先のうち2農家は、元青年農業士で、共通話題も多く交流を深めることができました。



バラ農家ほ場での意見交換

稲発酵粗飼料（稲WCS）収穫

令和5年度産の稲発酵粗飼料（以下、稲WCS）の収穫が始まりました。今年度は46.2haのほ場で1,341tを生産する計画となっています。令和3年度から牛での消化性向上のため茎葉部が多い稲WCS用品種の導入を促進し、昨今の飼料高騰もあり積極的に品種の切り替えが行われ、稲WCS用品種の割合は総作付け面積の7割となっています。また、稲WCSの生産を始め13年目となり、老朽化した作業機械を更新し、今年度作より運用が始まりました。梱包部が従来よりコンパクトで運搬やほ場作業の操作性がよいとのことで作業性の向上が期待できます。



稲WCS収穫機械